



インドネシア・バリ島の伝統音楽ガムランを披露した演奏会＝浜松市中区の鴨江アートセンター

バリの伝統音楽  
舞に合わせ披露  
静岡文化芸術大生ら  
インドネシア・バリ

曲の合間には、サークルを指導する文化政策学部の梅田英春教授が「楽器同士の音を違う高さに調整することで、遠くまで響くようにしている」などと解説した。

島の伝統音楽ガムランの演奏活動に取り組み静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生サークル「スアラ・チャンダ」は10日、演奏会「音の戯れ」(静岡新聞社・静岡放送後援)を同区の鴨江アートセンターで開いた。

学生や市内のバリ舞踊愛好家ら約20人が、色鮮やかな民族衣装に身を包んで出演した。

鉄琴に似たガンサ、太鼓のクンタンなどの楽器演奏に合わせて、全身を伸びやかに使った舞を繰り広げた。客人を歓迎したり、極楽鳥の求愛行動を表現したりする演目を披露すると、会場は南国の雰囲気染まった。